

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0177500170		
法人名	株式会社ハヤシ環境		
事業所名	グループホームカルミア		
所在地	滝川市東町7丁目219番地6 (電話) 0125-23-1700		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年1月15日	評価確定日	平成20年3月17日

【情報提供票より】(19年12月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年1月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	16人, 非常勤 2人, 常勤換算 16.57人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	16,800 ~ 26,250 円
敷 金	有(100,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,050 円

(4) 利用者の概要(12月11日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	0	要介護2	6		
要介護3	5	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2	2		
年齢	平均 83.6 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	滝川市立病院・滝川脳神経外科医院・柳歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は滝川市郊外の新興住宅街に位置し、新しく開けた地域に設立された。「人と人との関係を基本とし、利用者の自尊心を大切にする」ことを盛り込んだ理念を基に、職員は日々のケアサービスを実践している。食事に関して独自のこだわりを持っており、利用者と職員が一緒に考えながら冷蔵庫にあるもので作るなど、ともに考え一緒に作業を行いながら毎日穏やかに生活している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題であった「苦情受付の表示」については、新たに重要事項説明書に明示するなど改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に関しては、全職員で会議で検討事項について話し合うなど、全員で取り組んでいる。また、今回の外部評価に際しても、職員は積極的な意見を出すなど前向きな姿勢で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族代表・町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員等を構成員とし、運営推進会議を開催している。会議では事業所の運営状況や行事等について報告するとともに活発な意見交換を行い、事業所の運営に反映させている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	職員は日頃から家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望等を伝えられるような雰囲気づくりに努めている。また、家族から意見等を受けた場合は職員間で検討し、希望に沿えるよう対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市主催の祭りや盆踊り大会等の行事に参加したり、近隣レストランに外食に出向くなど、町内との交流に努め、地域に溶け込んだ生活となるよう努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域において、利用者がその人らしく暮らしていくことを盛り込んだ事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の要所に理念を掲示し、毎朝の申し送り時に全職員で唱和している。また、職員は常に理念を念頭に置きながら、日々のケアサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に溶け込んだ生活の大切さを認識しており、立地条件上難しい面がある中、市主催の祭りや盆踊りに参加するなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価での課題であった「苦情受付の表示」については、新たに明示するなど改善に取り組んでいる。また、今回の外部評価に際しては、会議で検討項目について話し合い、全職員で自己評価に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族代表・町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員等を構成員とし、運営推進会議を開催している。会議では事業所の運営状況や行事等について報告すると共に活発な意見交換を行い、事業所の運営に反映させている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>月に1度開催される地域包括支援センター主催のケアマネジャー連絡会に出席し、情報交換等を行っている。また、市主催の研修会や会議に参加し、担当者に事業所の運営状況等について相談するなど、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態等について報告している。また、体調の変化があった場合はそのつど連絡している。頻繁に来訪できない家族には電話連絡を行うとともに、年に2回事業所便りを発行し、利用者の事業所での暮らしぶりを報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は日頃から家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望等を伝えられる雰囲気づくりに努めている。また、意見等を受けた場合は職員間で検討し、希望に沿えるよう対応している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職等があった場合は、十分な引継ぎ期間を設けるなどし、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。また、異動について事前に利用者へ報告し、不安の解消に努めている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は職員育成の重要性を認識し、知識や経験に応じた研修に参加する機会を設け、職員は積極的に受講している。受講後は報告会を開き、情報を伝達し更なるスキルアップを図っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>空知ブロックの研修会に参加し同業者と情報交換を行っている。また、地域包括支援センター主催の研修会に参加し報告会を行った。他事業所の見学や職員交流等によりサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に利用者本人・家族に事業所を見学してもらったり、職員との面談により事業所に馴染んでからの入居となるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者の得意な事を見極め、調理方法や野菜作りなどを教えてもらいながら支え合う関係を築いている。また、利用者と一緒に過ごす中で、ともに学び合えるよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一部センター方式を活用し、職員は利用者一人ひとりの状態を詳しく把握できるよう努めている。また、家族から情報を収集して利用者の希望を把握し、日々のケアサービスに活かせるよう取り組んでいる。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式のアセスメントを活用して利用者の思いを汲み取れるよう努めている。また、家族の意見や希望を採り入れ全職員で話し合いながら介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度の定期的な見直しを行うとともに、利用者の状態変化に応じてそのつど本人・家族と話し合い、医療機関に相談しながら現状に即した介護計画を作成している。また、作成後は家族に説明し、同意を得ている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>受診時の送迎や、買い物・外食時の付き添いなど、利用者の希望に応じた柔軟な支援を行っている。また、帰宅願望の強い利用者には一時帰宅の支援をするなど、一人ひとりの要望に沿ったケアサービスを実践している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望するかかりつけ医への受診支援を行い、受診後は結果を家族に報告している。また、事業所には看護師が常勤し、利用者の健康状態についていつでも相談できる体制が整えられており、安心に繋がっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重要事項説明書に重度化・終末期の対応についての指針を記載しており、家族と情報を共有している。また、医療機関とも連携を取り、適切に対応できるような体制を整えている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は利用者の誇りを損ねることのないような声かけや対応を心がけている。また、面会簿の記載方法や個人情報の取り扱いに関して、プライバシー保護に徹した適切な対応をしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は利用者の体調や生活歴を考慮し、その人らしい生活となるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の力量に応じて調理や後片付けなどを一緒に行っている。また、職員は利用者と同じ食卓につき、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じた週に2・3回の入浴支援を行っている。また、シャワー浴や足浴など、利用者の状態に応じた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・カレンダーの日めくり・カーテンの開け閉めなど、一人ひとりの力量に応じた役割の支援を行っている。また、利用者の趣味や気晴らしの支援を行うことにより、張り合いのある暮らしとなるよう取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・花見・観光など、利用者の希望に合わせた外出支援を行っている。また、事業所の畑への水やりや収穫を楽しむなど、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることへの弊害を理解しており、日中は施錠していない。利用者が外出しそうな様子の中には、職員がさりげなく声かけをするなど工夫し、利用者の安全面に配慮しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1度、消防署の協力を得ながら避難訓練を実施するとともに、災害時マニュアルを整備している。また、運営推進会議を通じて緊急時に地域から協力が得られるよう働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事・水分摂取量を個別に記録しており、情報を共有している。また、調理方法を工夫するなど、一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはソファ・椅子が設置され、利用者がひとりでも寛げるようなスペースが確保されている。また、ホールの天井は高く開放感があり、光・音・湿度も適宜調整されており、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの家具・仏壇・装飾品等が持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるような空間となっている。また、家族や孫の写真が飾られ、本人が安心して生活できるよう配慮している。		

 は、重点項目。